紙つぶて

# 世界で学ばれるイタリア語

武田（たけだ） 好（よしみ）

イタリア語は近年、英語、スペイン語、中国語に次いで、世界で四番目に多く学ばれているとイタリアで報道され、話題となっている。二〇一四年ごろから世界四番目と伝えられ始め、上位にあったフランス語に替わって中国語が入った。

面白いのは、イタリア語を話す人の数は世界で二十一番目なのに、学ぶ人の数が四番目という点である。イタリア語学習の目的は多様で、文学、音楽、芸術、料理など、文化を学ぶためというのがイタリア人の自負するところだ。同時にイタリア系移民によって広く世界に言葉がもたらされた側面も指摘されている。

一方、イタリア国内では英語が最も多く学ばれていて、フランス語、スペイン語、ドイツ語と続く。大学や語学学校では、さらに中国語やアラビア語を学習する傾向にあるらしい。

現在、静岡文化芸術大（ＳＵＡＣ＝スアック）でイタリア語の授業を担当しているが、履修者数は堅調で、留学を目指す学生がいる。留学先は交流協定を結ぶボローニャ大（ＵＮＩＢＯ＝ウニボ）である。欧州最古の大学として知られるＵＮＩＢＯの学生数は八万人を優に超える。

ＳＵＡＣは今年、開学二十周年を迎える新しい大学である。文化政策学部とデザイン学部の二学部からなる公立大学は珍しい。日本とイタリアの新旧二つの大学で、文化と芸術を学ぼうとする学生の目が輝いている。

（静岡文化芸術大教授）

2020.1.11

2020.1.11
中日新聞（夕刊）P.1